

論 壇

YAKUJI-Shinbou's Virtual Radio Station

山口大学大学院教授/医学部附属病院薬剤部長
古川 裕 之

YAKUJI 辛抱 (以下, SHINBOU): 放送をお聞きの皆さん, こんにちは。病院薬剤師の強力なサポーター, 「YAKUJI 辛抱」です。軽快なサンバのリズムに乗せてお届けする, アナタのための「ノリノリ」薬剤師インタビュー。今日は, 山口県から「FUGUKAWA (ふぐ皮)」さんをお招きしてお送りします。どうぞ, 最後まで, お楽しみ下さい。(♪ テーマ音楽 ♪)

FUGUKAWAさん, はじめまして。今日は, お忙しいところ, ありがとうございます。

FUGUKAWA (以下, FUGU): こちらこそ, お招きいただき, ありがとうございます。よろしくお願ひします。

SHINBOU: FUGUKAWAさんは2010年9月に山口大学病院に異動されたということですが, 山口に何かご縁でもありましたか? ご先祖が「松下村塾」で学ばれたとか……。

FUGU: いえ, 特に……。でも, 接点, ありますね。若い頃, 上司との関係が悪く, アルコール量が増えた時期がありました。31歳の時, 山口県病院薬剤師会から, 講演依頼をいただきました。精神的に苦しかった頃なので, 飛び上がりました。この講演依頼が, 更生のきっかけになりました……。

SHINBOU: 更生のきっかけ? そうですか……。一部では, まだ更生していないとの噂もありますが……。ま, それはさておき, 山口での生活, いかがですか?

FUGU: もう何年も前から住んでいるくらい, なじんでいます。どこでも生活できるタイプなんです, きっと。特に, 生まれ育ちが雪国なので, 雪のない冬はとても新鮮です。

SHINBOU: FUGUKAWAさんは, 以前, 治験や医療安全のマネジメントをされていましたね。今回, 再び薬剤部に戻られましたか, いかがですか? 薬剤部以外での仕事経験は, どのように役立っていますか?

FUGU: 治験を含む臨床研究のマネジメント,

そして, 医療安全マネジメントの経験は, とても貴重です。薬剤部を離れていた8年間, これらの仕事を通して外から薬剤業務を観察することができました。外国に住みながら, 日本のことを改めて考え直す, そんな感じですね。薬剤部門のいい所と悪い所が, よく理解できました。今, その経験を生かして, 薬剤師に求められている仕事の展開に取り組んでいます。

SHINBOU: FUGUKAWAさんは, 患者の自覚症状に基づく「副作用シグナル検出シート」を考案し, その普及を進めていますが, この取り組みもその一環ですか?

FUGU: はい。薬剤師の重要な役割は, 重篤な副作用から患者を守ることと考えています。身体の異常は, 本人が最初に気づきます。でも, 調剤薬を渡す時, 副作用を確認するために「何か変わったことがありますか?」と尋ねても, 患者は答えにくいのではないかと思います。そこで, 分かりやすいイラストを用いた確認シートを用いて異常の有無を患者に確認することで, 副作用のシグナルを早期に検出しようと考えたわけです。メリハリを付けるために, 発売1年以内の新薬とハイリスク薬が投与されている患者に特に注目しています。

SHINBOU: なるほど。では, その試み, 期待どおりの効果をあげていますか?

FUGU: すでに1年以上継続していますが, まだ地域限定の取り組みなので, 何とも言えません。ただ, ある製薬会社のコンテストで準グランプリをいただきましたので, これを機会に利用が広がっていくことを期待しています。また, 最近, smart phoneを用いたシステムの共同開発を始まりました。

SHINBOU: ところで, 今回の診療報酬改定で新設された「病棟薬剤業務実施加算」について, どのように思われますか?

FUGU: そうですね。今回, 病棟業務が評価されると思っていたのですが, このような形で実現す

るとは予想外でした。

SHINBOU：予想外……とは、どういうことですか？

FUGU：これまでの服薬指導を中心とした薬剤管理指導業務の延長だと思っていました。ところが、違いました。薬剤管理指導業務は個々の患者に向けた業務に対する“個別評価”なので、関与した患者のみが対象です。一方、入院基本料等加算に含まれる病棟薬剤業務は感染対策防止加算のように“体制評価”なので、病棟単位ではなく全病棟が対象となります。このことは、とても意味のある変化です。そして、業務時間が週20時間と具体的に示されたことも驚きです。これに、これまでの薬剤管理指導業務の週10時間を加えると週30時間、つまり、1日の75%が病棟関連業務です。これは、1988年の“100点業務”新設以来の大きな出来事です。それも、6年制薬学部第1期生の卒業と同じ年に新設というのは、タイミングが良過ぎます、ほんと。

SHINBOU：確かに……。それで、何か具体的な取り組み、されていますか？

FUGU：準備は、昨年4月から始めています。病棟での業務は、中央業務と違って、標準化が遅れています。担当薬剤師間のバラツキが大きいのです。そこで、バラツキを少なくするために、最も時間を要している事前調査（下調べ）と記録の効率化の検討を始めました。そこでは、患者観察項目の検討、また、自分自身のための記録から医師・看護師に役立つ記録への改革などを重視しています。

SHINBOU：それで、病棟薬剤業務の取り組みは順調に進行していますか？

FUGU：いえ。残念ながら、スタッフ数が足りなくて、全病棟で業務を開始できません。とりあえず、4月から、モデルフロア（2看護単位）を決めて、2013年4月からの全面展開に向けた業務モデルの構築を開始しています。うれしいことに、病棟の医師と看護師は、とても協力的です。もちろん、病院側には、新業務展開による収支見込みを示しながら薬剤師増員をお願いしています。必要な人数の薬剤師を確保するには、遅くとも10月までには募集開始しなくてはなりません。これは、薬剤部門トップの大切な仕事です。

SHINBOU：FUGUKAWAさん。何か他に言い残したことはありませんか？

FUGU：はい。あります。製造販売後調査のことです。ちょっと長くなりますが……。 「ドラッグ・ラグ (drug lag)」 対策として、2006年頃か

ら海外データと限られた日本人データに基づく承認審査が行われるようになりました。その結果、一部の医薬品で、日本人での有効性と安全性を確認するためのデータを、投与された全患者を対象として市販後に収集することが必要になりました。背景が背景だけに、データの質が重要になります。具体的には、承認時に「全例調査」という条件が付けられるようになったわけです。その調査用の症例票への記載、これが医師にとって大きな負担です。一部では、薬剤師（あるいはCRC）がサポートしていますが、副作用の多い薬剤では、なかなか大変な業務量になっています。

SHINBOU：なるほど。問題解決のための提案、何かありますか？

FUGU：製造販売後調査の役割が大きく変化しているのにもかかわらず、調査経費が「医療用医薬品製造販売業公正競争規約」で定められている点は疑問です。調査の必要性は医師も薬剤師も理解しています。でも、調査票記載の負担を考えると、その新薬を使いたくないというのが本音です。つまり、今の製造販売後調査は、過去とは異なり、使用誘導にはなっていません。新しい目的の製造販売後調査を有効かつ円滑に機能させるには、この現実を正しく理解し、業務量に見合う経費設定のしくみ作りが必要です。

SHINBOU：なるほど。だんだん熱くなってきましたね。でも、残念ながら、そろそろ時間です。では、FUGUKAWAさん、最後に、リスナーの皆さんにメッセージ、お願いします。

FUGU：はい。今回の「病棟薬剤業務実施」という大きな宿題に対しては、薬剤部門のトップ自らが先頭に立ち、スタッフと一緒に進まなければならないと思っています。できれば、その過程で、新しい道を作る楽しみを次の世代に実感してもらいたいと願っています。確かに、険しい道のりです。でも、笑顔を忘れず、一緒に道を開いていきたいと思います。何より、トップの“SMILE”が重要です。

SHINBOU：は～い、FUGUKAWAさん、今日はありがとうございました。FUGUKAWAさんからのメッセージ、全国のリスナーに届くことを祈ります。(♪ テーマ音楽 ♪)

いつものテーマ音楽が流れてきました。今日の「ノリノリ」薬剤師インタビュー、いかがだったでしょうか？ ぜひ、番組の感想をお聞かせ下さい。では、全国の皆さん、また来週、お耳にかけましょう。お相手は、病院薬剤師の強力サポーター、「SHINBOU」でした。 CHAO!!

薬事新報

平成24年（毎週1回木曜日発行）昭和33年8月4日 第三種郵便物認可・薬事新報社© 7月19日 第2743号

《目次》

- 医療を考える〈病棟薬剤業務実施加算に思う〉……………進藤 美人… 3
 論壇〈YAKUJI-Shinbou's Virtual Radio Station〉……………古川 裕之… 5
 シリーズ・HIV感染症専門薬剤師
 地方の自治体病院におけるHIV感染症専門薬剤師の役割…野毛 一郎… 9
 医薬の窓（582）—近着誌から……………前 彰…16
 手術部における薬剤師業務
 当院手術室における薬剤師業務の変遷
 ……………藤田奈緒子，安田 礼子，小山 秀樹…25
 日本病院薬剤師会：第44回臨時総会（7）……………編集部…31
 これも薬本草だ（31）
 ナギイカター静脈不全症の予防と治療……………本橋 登…37
 人と人〈“薬剤師として”医師，患者と向き合う〉……………定岡 邦夫…38
 点 描〈星になれたら（ミスチル）〉……………彩 ……38



本誌創刊記念・棟方志功画

News

- 神奈川県病薬 夏季合同懇親会「加賀谷会長 公益法人化を報告」……【2】
 とかしきなおみ（前衆議院議員）活動報告34「日本を元気にするには」……【3】
 岩手県病院薬剤師会 第57回通常総会を開催「工藤会長（岩手医大）を再選」……【4】

〈本誌綱領〉

本誌は日本病院薬剤師会に協力して会員間の連携を強め、会の発展と会員職能の向上に努める。

本誌は常に誌面提供の機会を均等に保ち、臨床薬学、剤界情報の媒体として、わが国薬学薬業の発展に努める。

世界にまだないくすりのために。

まだ治せない病気とたたかう人たちの、支えになりたい。

まだないくすりを待つ世界中の人たちの、期待にこたえたい。

世界の明日を変える一錠のために、

わたしたちは挑戦を続けます。

